

手術室制限に関するアンケート調査結果（2020年4月23日-5月17日）

日本麻酔科学会COVID-19対策特別委員会は4月26日から日本麻酔科学会認定施設である全国1415病院の代表専門医に対してアンケート調査を行いました。内容は各施設でのCOVID-19に対する手術室制限の現状 { (制限あり、なし) 、(制限手術室数) 、(COVID-19専用手術室数) } です。さらに実際の手術室利用状況を調査するため、前年度の総手術件数、アンケート回答時前週の手術件数を記入してもらっています。これによって前年度の週平均手術件数を算出し（総手術件数/52週）、週間手術件数の前年度比（%）を算出しました。このアンケートを4月27日より毎週回答してもらっています。

調査期間中に423-648施設から回答がありました（平均520施設：36.7%）。登録手術室数は平均で3736室、平均登録手術件数は24298件/週でした。何らかの理由で手術室を制限している数は7-9%程度で、COVID-19患者専用に準備されている手術室は期間を通しておよそ2%程度でした。

全国的に見ると週間手術件数前年度比は84%、79%、41%（GW）、80%でおよそ前年度比80%の手術件数で推移しています。特定警戒地域における週間手術件数前年度比を図1に示します。調査期間（4月20日-5月17日）における4週間でゴールデンウィークの週以外での手術件数にはどの都道府県でも大きな変動は見られませんでした。東京都はおよそ前年度比60%程度で推移し、それ以外の道府県では70-80%で推移しています。地域別でみますと中国・四国、東海・北陸地方は全国平均よりも高いレベルで推移し、逆に関東・甲信越・東京では全国平均よりも明らかに低いレベルで推移しています（図2）。4月第4週では大きかった地域毎のばらつきも、5月第2週ではおよそ80%程度に収束してきている印象です。

この数字は緊急事態宣言解除の直前でも全国の手術件数は約20%前年度より減少している事を示しており、日本の手術医療はまだ回復していないと言えます。今回の登録手術件数を約25000件/週とすると、一週間で約6250件の手術が減少している事となり、回答施設が1/3と仮定すれば週に18000件程度の手術が減少しております。

本アンケートは全例調査ではありませんので、回答された施設の現状であり、必ずしも現状の全てを表しているものではありません。日本麻酔科学会COVID-19対策特別委員会は本調査を毎週継続して行い、報告していきます。

図1

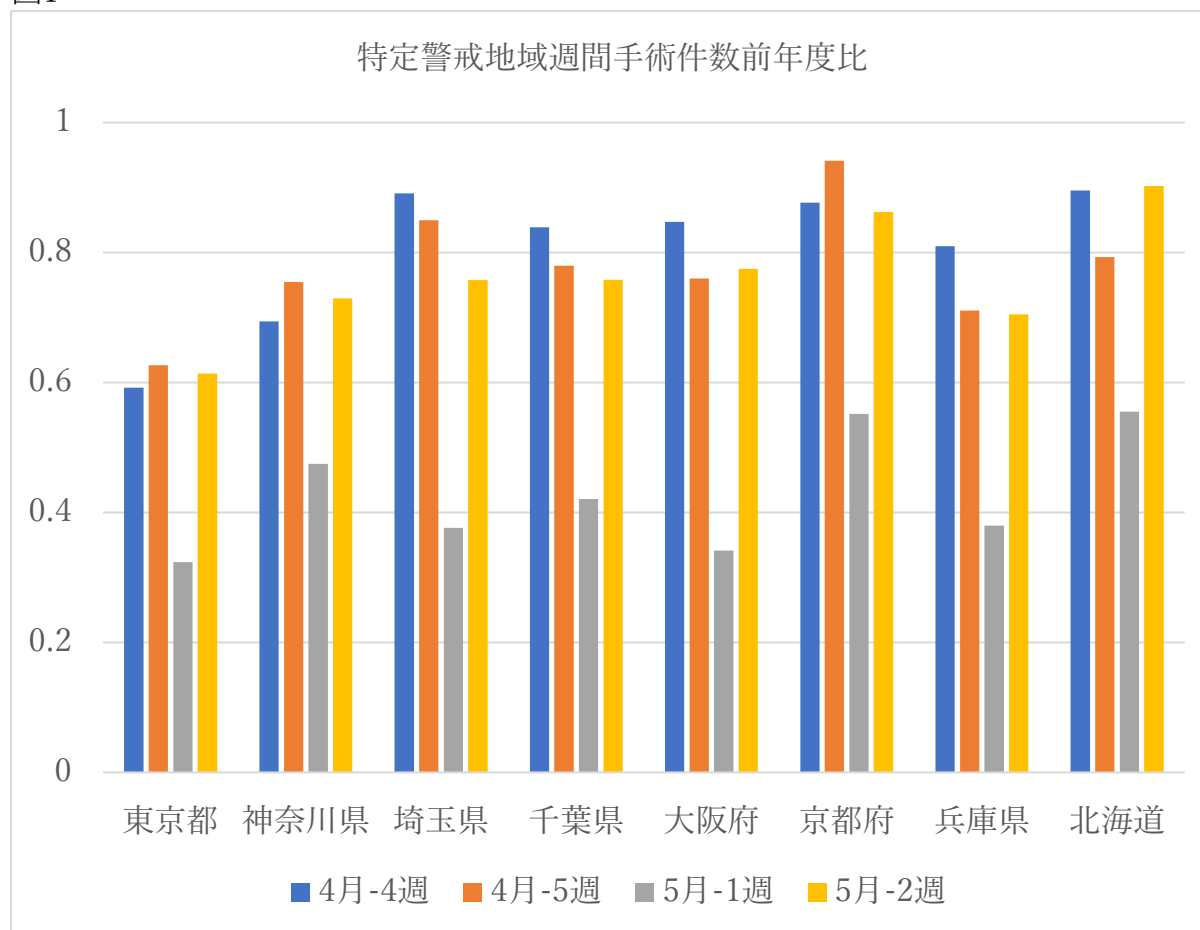


図2

